

別記様式

議 事 録

会議の名称	令和5年度第3回岩倉市行政評価委員会
開催日時	令和5年10月3日(火) 午後2時から午後4時50分まで
開催場所	市役所7階 第2・3委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	出席委員：千頭委員(委員長)、小松委員(副委員長)、川中委員、 宇佐美委員、松浦委員、村上委員、三輪委員、水野委員、 万年委員 欠席委員：吉田委員 施策担当課：西村都市整備課長、加藤整備グループ長、岡計画営繕 グループ長、田中維持管理課長、今枝環境グループ長、竹井商工農 政課長、水谷農政グループ長、夫馬商工観光グループ長 事務局：中村総務部長、秋田秘書企画課長、宇佐見企画政策グルー プ長、中山主任
会議の議題	(1) 岩倉市行政評価委員会(総合計画進捗評価分)の進め方につ いて (2) 第5次総合計画の進捗の評価について
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資 料の名称	資料1：岩倉市行政評価制度 資料2：第5次岩倉市号総計画基本施策一覧表 資料3：令和5年度行政評価委員会進行スケジュール(総合計画進 捗評価分) 資料4：第5次岩倉市総合計画基本施策評価シート(令和4年度実 施施策) 参考：単位施策の評価基準表
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	議事録作成者 中山

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

委員長からあいさつ

2 議事

（1）岩倉市行政評価委員会（総合計画進捗評価分）の進め方について

【資料1、資料3、資料4】を基に事務局から説明

（2）第5次総合計画の進捗の評価について

【基本施策15・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課から説明

委員：現在のお祭り広場は基本的にはイベント時にのみにぎわいがあり、それ以外は普通の公園となっている。ここでいう「駅東のにぎわい」というと休日のみならず毎日のにぎわいの創出ということになると思うがどのように日常のにぎわいを創出するのか。

施策担当課：策定した（仮称）にぎわい広場整備基本構想の中でも、市民の方が集まって、例えば催しを開催したり、お店を出したりできるエリアを設け、イベント時だけでなく日常のご利用いただけるような広場として整備するとしている。

委員：桜通線の周りへの商店の誘致を含めて検討しているのか。

施策担当課：桜通線について、沿道の土地を管理している方に聞き取りをする中では、お店を出すというよりは賃貸住宅など個人個人で土地を活用していきたいという思いが強い印象。また、岩倉街道から五条川までの桜通線第2期整備についても、現在のお祭り広場のトイレやステージが道路にかかるため、その周辺の土地を買って、広場を新たに作り直すという構想であるが、沿道にお店を出すことは現時点では考えていない。

委員：桜通線について、現状、店舗がほとんどない中で、どうやってにぎわいを出していくのか、どう近隣住民を巻き込んでいって活性化を図っていくのかが見えてこない。

施策担当課：にぎわい広場整備の次の段階として、若い事業主方にお声がけするなど、地元の皆様を巻き込みながら駅東全体をどうしていこうかを検討したいと考えている。

委員長：若者を巻き込むうえで音があるといいと思うが、音を出せるのか。

施策担当課：近隣への影響もあるため、あまり出せないと思う。

委員：用地買収は計画通りか。

施策担当課：現時点では計画通り。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…C評価が8名、D評価が1名

委員：このままでにぎわいが創出できるのか不明瞭であるためD評価とした。

委員長：にぎわいの創出のためにはハードだけでなくソフトも必要である旨コメントに記載しながら、全体としてはC評価とする。

【基本施策15・単位施策（2）】について施策担当課から説明

委員：川井・野寄工業団地が工業系の市街化区域ということであるが、将来的にはその周辺は、住宅系として市街化区域に指定される計画もあるのか。

施策担当課：現在、井上町のエリア及び南新町のエリアを住宅系として拡大しようとしているところ。一方、工業系については岩倉病院の西側の農地が広がる部分を計画しており、川井・野寄工業団地と合わせて南北に連なる形を検討している。工業系と住宅系の隣接は望ましくないため、すみ分けをして進めているところ。

委員：関連する道路整備計画はどのようなか。

施策担当課：川井・野寄工業団地に入る企業に対し、極力、天保橋から北名古屋市への都市計画道路を通ってもらい、北に上がっていかないよう働きかけを行っている。今後も必要に応じた交通安全対策を検討していきたい。

委員：北島藤島線については大雨で冠水しやすい。ここからさらに工業団地ができると、排水が心配であるが、何か計画等はあるか。

施策担当課：埋め立てをして開発する際には、開発前の土地の保水量を様々な形で担保するよう県で基準が設けられており、川井・野寄の開発では基準以上の調整池を整備している。なお、道路の冠水など市全体的な浸水対策については、水が下流部にいかないよう上流部で地下調整池の整備等の対策を進めているところ。

副委員長：感想であるが、市街化区域が増えると農地が減るため、長い目で見た時に防災上のバランス取れているのか不安がある。

委員長：計画的な市街化区域の拡大と並行して、空き家など既存市街地の空洞化など従前の市街地をどうするのかという視点も必要と思うが、現段階で考えはあるか。

施策担当課：川井・野寄工業団地の整備は、地元の方からの声（農業継続困難、休耕地回避など）を吸い上げた上で進めたという背景がある。環境面での農地の必要性は理解しつつも、今後どういう誘致を図っていくかは難しい課題。

委員：一方で、工業化が進めば、田んぼが減り、農業を行うオペレーターの参入が難しくなる。

委員：成果指標の市街化区域率について令和12年で53.4%を目指すとのことだが、その先の計画はあるのか。

施策担当課：人口減少で空き家も増える。それ以上の拡大は無いと思っている。

委員長：では評価をしていきたい。挙手でお願いしたい。…C評価が9名

委員長：C評価とする。

【基本施策16・基本成果指標・単位施策(1)】について施策担当課から説明

委員：市営住宅について、今後、住民を一時どこかへ移しての建て替えは検討しているか。

施策担当課：市営住宅についてはまもなく耐用年数を経過する。修繕を検討する中で、現状、岩倉団地の部屋が空いてるため、家賃補助をしながら移っていただけないかと話しているところ。

委員：春日井の高蔵寺ニュータウンが大規模な退去を実施し、現在再開発しているところ。そういう大規模な施策も可能なのかなと思った。

副委員長：耐震改修促進計画に基づく診断、改修、解体に係る令和4年度の補助件数はどのようなか。

施策担当課：診断47件、解体8件、ブロック塀1件。

副委員長：耐震化率は建て替え等により何もしなくても上がっていく。施策としては、どのように予算が使われ、どのように耐震化に寄与したのかという視点が重要と思う。

委員：評価の前提について改めて確認したい。今年度の市民評価については、対象施策について、令和3年度分も含めて評価するのか。

事務局：今回の市民評価についてはあくまでも令和4年度の取り組みに対するものであるが、成果指標については年度ごとに実績値を出しているものもあるもので、推移を見て判断して欲しい。

委員：前年度の取り組みは充実しているものの今年度が見劣りする場合、評価が減少することになる。

事務局：単年度で評価するうえではそういうところも出てくると思う。

委員長：現状値から目標値までを、線で捉えることで、その線に乗っているのか、外れているのかで全体として評価できる。

委員：市街地のブロック塀に係る危険度等は把握しているか。

施策担当課：通学路は全て点検し、対象住戸に対して補助の勧奨行っているが、応じていただけないケースもあるため根気強い交渉が必要と考えている。一方、市内全域では愛知県と共に危険個所を把握し、所有者に案内する取り組みを行っている。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が9名

委員長：B評価とする。

【基本施策16・単位施策(2)】について施策担当課から説明

委員長：地球温暖化対策設備を備えた住宅の普及促進に係る補助の申請元は施主、工務店どちらか。

施策担当課：対象は施主になる。

委員長：実際はメーカーが施主に勧めると思うので、そこへのPRも重要。

委員：空き家バンクに係る登録の障害について分析しているか。

施策担当課：民間の不動産会社への聞き取りでは、売買の早さ。市の調査の間に、民間で売買されてしまうとのことであった。また、土地柄なのか、所有者が貸したいと思っていない現状もある。

委員：特定空き家の件数は。

施策担当課：過去7件あったが、所有者に働きかけして、現在は無くなっている。その後、地域の方の通報等を元に把握した空き家についても、所有者に手紙を送り、解体に繋げており、現時点では存在しないと判断している。

委員：いわゆるゴミ屋敷に対して指導等はあるか。

施策担当課：在宅の場合は福祉部署と連携しながら生活支援含めてサポートするというケースもある。不在の場合は所有者を調べ、片付けを依頼する手紙を送っている。

委員長：この問題は福祉の問題と密接に関係する場合が多く、1件ごとに状況が異なる。分野横断的な対応が必要。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が8名、C評価が1名

委員：成果指標を見てC評価と判断した。

委員長：成果指標について、このままでは令和7年度に目標に達しない指標もあるので、どのように進捗管理していくのかを課題としつつ、全体としてB評価とする。

【基本施策16・単位施策(3)】について施策担当課から説明

副委員長：花のあるまちづくり事業で管理する公共施設数が1か所減った理由はどのようなか。

施策担当課：石仏駅周辺の花壇について、老人クラブの会からやれないという申し出があったもの。

委員長：原因は担い手の高齢化か。残りの23か所の年齢層も同様に高いのか。

施策担当課：高い。その他団体からも厳しいという声がある。

委員長：このままでは目標値よりも減少する可能性もある。

委員：花のあるまちづくり事業はボランティアで成り立っているものか。

施策担当課：植える植物は市の予算で購入したものであるが、作業自体はボランティアでやってもらっている。

委員：委託事業とする方向では考えていないのか。

施策担当課：委託事業とした場合、市民協働という目的から外れてしまう。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が1名、C評価8名

委員：普段から目のつく事業であり、市民のボランティアの活動を評価してB評価とした。

委員長：市民の方がよく頑張ってくれていることをコメントとして追記しながら、全体としてC評価とする。

【基本施策22・基本成果指標・単位施策(1)】について施策担当課から説明

委員：遊具点検について、定期点検と日常点検の違い及び修繕事例はどのようなか。

施策担当課：点検は年4回。うち1回は6月に詳細点検を実施。緊急性の高いものは9月補正で予算措置し、修繕を行っている。詳細点検以外は基本的に目視点検。修繕事例としては、摩耗した金属部品の取り換えや、木製遊具の腐り部分の取り換えなどを実施している。

委員：最近では、グラウンドに打ち込まれた釘による子どもの怪我などがニュースとなったが、そのようなチェックも行っているのか。

施策担当課：日常的には週一程度、目視による点検を実施。今回事件を踏まえて、公園に限らず、学校のグラウンドについても目視による点検を実施した。

委員：将来に向けた計画的な公園整備が必要とのことだが、市民一人あたりの公園面積について、県内平均を目指すという方針なのか。岩倉市は市域も狭く人口密度が高いため難しいように思われる。

施策担当課：県内平均満たすためには中央公園規模の公園を26園整備する必要がある、その分の用地を買ってというのは現実的ではない。スポット的な公園整備により、増やしていきたいと考えている。

委員長：都市公園以外の公園はあるのか。

施策担当課：児童遊園がある。

委員長：児童遊園を含め都市整備課が所管しているのか。

事務局：現状は児童遊園については、子育て支援課が所管している。ただし令和6年度の機構改革から都市公園、児童遊園、ふれあい広場を一元管理する予定。

委員：近所の保護者の方と話していると岩倉の公園の魅力の無さが話題に上ることがある。その中でリニューアル時の市民参加はいいと思うが具体的な予定はあるのか。

施策担当課：現在、大規模な公園リニューアルの予定はないが、遊具のリニューアルに際しては地元の意見を反映したいという思いがある。遊具の安全性からどれも似たような遊具となる中で、魅力があるものにしようと思うと特注となり、特色化と費用のバランスが難しい。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が8名、C評価1名

副委員長：取り組みはいいが、成果指標がない中で上昇が見込まれるというのは少し甘い気がする。新しい公園ができれば評価が上がる側面もあるが、一方で公園は必ずしも子どもだけのものでもないことから、高齢の方の利用がどうなのか等本当に市民にとって欲しいもののできたのかの検証も欲しいと考えC評価とした。

委員長：今の意見についてコメントに書き加えた上でB評価とする。

【基本施策22・単位施策(2)】について施策担当課から説明

委員長：施策名が緑の保全のところ、成果指標が保護樹、保護樹林だけなのが気になる。重点施策となっている公共施設の緑化推進のところ、新たな動きなどはないか。

施策担当課：公共施設を所管する担当課への照会を行っているが、なかなか公共施設内に植えるところがないという状況。

委員長：小牧市が緑の基本計画を策定する際には、同じ緑でも外来種ではなく、在来種を入れるなど、量でなく質のところでも緑化を推進しようと踏み込んで策定しており、そういうところと比べると寂しい印象。

委員：今年の夏は猛暑であったが、街路樹があると暑さを凌ぐこともできる。熱中症対策などこのあたりの視点も入れて欲しい。

委員長：公共事業の中で発生する残地を利用した緑化はできないか。

施策担当課：五条川右岸堤防道路整備事業では残地で木を植えている。

副委員長：保護樹林が1か所解除された理由はどのようなか。

施策担当課：岩倉北小学校の屋内運動場整備の中で、整備計画上、駐車場を設ける必要がある木を切ったことから、樹林として存続できなくなったもの。

副委員長：施設整備など仕方ない部分もあると思うが、補うものも欲しい。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が5名、C評価4名

委員：緑の保全という部分において、直接的な取り組みが無いというところからC評価とした。

副委員長：成果指標における実績が現状と同等と判断しC評価とした。改善したとは評価し難い。

委員：岩倉市全体として見た時に緑の保全が進んでいるとは言い難いと思いC評価とした。

委員長：施策の目的として緑の保全・育成とあるが、そこに向かっているのかこの指標では読みにくかったので、そこが取組内容として記載があると良かった。サーティ・バイ・サーティなど自然環境の保全に係る国の動向もある中で、積極的に考えることができたらいいなという期待を込めてC評価とした。

委員長：評価が割れたが、全体としてはB評価が多いところ。今の意見を踏まえてなおB評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：全体としてB評価とする。

【基本施策 18・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課から説明

委員：農地及び周辺環境の保全活動を行う団体ができることによって、団体内で地域の農地を維持していこうという機運が高まるので他の地域でも積極的に進めていただきたい。

副委員長：農業体験参加者数が目標値を超えているがどのような工夫を行っているのか。

施策担当課：稲づくり農業体験のプログラムに農業機械の実演や、ジャンボタニシのトラップづくり、いわくらTKGの試食等を加えるなどの工夫をしている。また市民農園について、コロナ禍により需要が高まった。

副委員長：市民農園についてはリピーターが多いのか。

施策担当課：一度入ると5年続く方が多いが、中には数か月で諦める方もいる。

委員：農にふれる機会の創出について市だけでは難しいと思うので、他の地域の団体の取組についても積極的な周知をお願いしたい。

委員：市民農園はどの地域にどれくらいあるのか。また、今後増やす計画はあるのか。

施策担当課：各小学校区に1つずつ、5か所ある。増やす予定はない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手でお願いしたい。…B評価が9名

委員長：B評価とする。

【基本施策 18・単位施策（2）】について施策担当課から説明

委員長：新規就農者は何の作物を育てているのか。

施策担当課：昨年の新規就農者は青パパイヤ。

委員長：財政的な補助について、県については色々あるが、市はあるのか。

施策担当課：新規就農者向けの制度はないが、農業機械の補助など個別の補助制度を持っている。

委員：成果指標の目標を見ると担い手の農家数は今後増加の見込みであるが、将来的には高齢化による離農も考えられる。実際にやってくれそうな方など、具体的な増加の見通しはあるのか。

施策担当課：就農希望もあるが、現農業者の高齢化などの課題もあり増加は難しい状況。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…C評価が9名

委員長：C評価とする。

【基本施策 18・単位施策（3）】について施策担当課から説明

委員：学校給食における地場農産物の使用割合が低い原因はどのようなか。

施策担当課：確実な納入が担保されるほどの生産規模がないため、多くメニューに組み込めない現状がある。

委員：周りに学校給食への納入を希望する農家もいるが、量を揃えるのは難しい状況。例えば農家と仕入れ業者の意見交換の機会があるといいと思う。

委員長：米は地場農産物を使うのが難しいとされているが、学校給食において岩倉市では岩倉産を使っているのか。

施策担当課：市内にライスセンターがあり使用しやすい環境がある。

委員：岩倉産の農産物の出荷額は把握できているのか。

施策担当課：実際の農家の出荷量が減ったなど感覚的なものはあるが、現在は市町村別の統計データの公表がなく、正確には把握できていない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が9名

委員長：B評価とする。

【基本施策 18・単位施策（4）】について施策担当課から説明

委員長：名古屋コーチンについて学校給食では出るのか。

施策担当課：昨年度の「いわくらをたっぷり味わおう週間」の中で使っている。

副委員長：消費拡大とあるが、拡大しても生産力があるのか。施策として何を狙っているのかが分かりにくい。

施策担当課：提供している店は少ないため、極端な消費量の増加には対応できない。存続や維持に努めながら活性化させていくといった方向性。

委員：いろんなイベントでPRしているが、扱っている店の規模が小さく、各店舗が独自にPRしているようには見られない。PRについて、行政が主体となるのか、各店舗が主体となるのか、そこに切り込んでいかなければ難しいと思う。

委員：生産・販売業者への今後の支援方法についてはどのように検討しているのか。

施策担当課：経営体制の拡大は難しい。今あるものをいかに存続していくかという視点で支援していく。

委員：小学校の飼育小屋等で名古屋コーチンを飼育する等により振興を図ることは可能か。

施策担当課：現在、小学校では動物を飼育していない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…C評価が9名

委員長：C評価とする。

【基本施策 19・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課から説明

委員長：ビジネスサポートセンターの利用件数の増加はいい傾向。

施策担当課：がんばる中小企業等応援補助金の相談増えている。

委員：ビジネスサポートセンターを実際に利用した中小企業からの評価は聞いているか。

施策担当課：事業者の声から高評価を頂いている印象はある。がんばる中小企業等応援補助金では単に補助だけでなく、様々な提案なども併せて行っている。相談件数が増えているということは、その辺りを評価いただいていると分析している。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が9名

委員長：B評価とする。

【基本施策 19・単位施策（2）】について施策担当課から説明

委員：成果指標や取組内容を見るとA評価でもいいと思うが、B評価とした理由はどのようなか。

施策担当課：創業支援の面で十分とは言えない部分があった点を考慮したもの。

副委員長：実際に創業に繋がったのは何件か。

施策担当課：創業件数は10件であるが、相談なく創業したケースもあるため、相談件数中の創業件数は算出できない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が8名

委員長：B評価とする。

3 その他

次回会議日程 10月24日（火）午前9時から 大会議室